

室蘭市地域医療のあり方について
提 言 書

平成 30 年 5 月

室蘭市地域医療あり方検討会

室蘭市地域医療あり方検討会 委員名簿

| | | |
|------|-------|-------------------|
| (会長) | 石井 吉春 | 北海道大学公共政策大学院 特任教授 |
| | 稲川 昭 | 室蘭市医師会 会長 |
| | 塚本 泰司 | 札幌医科大学 学長 |
| | 土肥 修司 | 市立室蘭総合病院 病院事業管理者 |
| | 沼田 俊治 | 室蘭市町内会連合会 会長 |
| | 平田 哲 | 旭川医科大学 病院長 |
| | 廣島 孝 | 北海道胆振総合振興局 保健環境部長 |
| | 寶金 清博 | 北海道大学 病院長 |
| | 松木 高雪 | 製鉄記念室蘭病院 理事長 |
| | 柳谷 晶仁 | 日鋼記念病院 院長 |

(敬称略、五十音順)

室蘭市地域医療あり方検討会 開催状況

第1回開催

- ・日 時 平成29年11月11日(土) 14時～
- ・会 場 室蘭市保健センター3階会議室
- ・議 題 現状と課題について

第2回開催

- ・日 時 平成29年12月26日(火) 18時30分～
- ・会 場 室蘭市保健センター3階会議室
- ・議 題 将来展望について

第3回開催

- ・日 時 平成30年2月15日(木) 18時30分～
- ・会 場 室蘭市保健センター3階会議室
- ・議 題 将来展望及び短中期の連携策について

第4回開催

- ・日 時 平成30年3月28日(水) 18時30分～
- ・会 場 室蘭市保健センター3階会議室
- ・議 題 報告書のとりまとめについて

(1) 提言が目指すもの

室蘭市の地域医療のあり方については、計4回にわたり、中核となる3病院の再編を軸に議論を進めてきた。背景には、室蘭市及び2次医療圏における人口減少と今後のさらなる人口減少や高齢化の進展などによる人口構造の変化があげられる。

これまでも地域医療の確保に向け、各病院が様々な努力を行ってきたことは言うまでもないことであるが、そうした各病院の努力のみでは、もはや対応が困難となる可能性もあることから、今回の議論に至ったものである。

こうした事態に対処するために、これまで及び将来の人口減少などを見据え、診療機能の再編について早急に検討を進める必要がある。また、地域医療を確保していくためには、高度急性期など、これまで以上に2次医療圏の中核を担い、円滑な医師確保なども可能となるような診療機能の強化・再編により医師の就労環境の改善や各病院の重複投資を防止することも急務となっている。

将来世代が安心できる2次医療圏の中核となる診療機能の維持・強化を図るために、3病院を中心とした再編等を実現していく必要がある。

(2) 3病院の経営形態について

将来の3病院の経営形態については、次のとおり様々な意見が出され、現時点で方向性を統一することはできないが、今後3病院で更に議論を深め、政策的医療及び不採算医療への対応や将来の新病院建設の必要性等にも配慮しつつ、具体的な経営形態のあり方や進め方について検討を行うものとする。

- ・西胆振圏全体を考慮し、3病院の診療機能の再編を優先的に検討すべき
- ・症例数の増加等による診療水準の維持・向上、高度医療を担う医師の確保、経営の効率化等につながることから、1つの法人に移行すべき
- ・将来的に目指すべき法人の前段階で地域医療連携推進法人などの形態をとりながら一体性を形成・共有する取り組みが必要
- ・現在、地域で健全経営をしている民間病院の経営手法は重要であり、将来的にも堅持すべき

(3) 病院数及び各病院の基本的医療機能について

将来の病院数については、次のとおり様々な意見が出されたことから、今後の経営形態の議論に合わせて検討を深めることとし、当面の間は、現有3施設を活かしながら、効率的な経営や質の高い医療提供体制、安定した医師確保による地域医療の継続性を高めるため、診療機能の統合・再編や病院数の縮小に向けて再編等を検討するものとする。

- ・将来の人口動態なども踏まえながら、病院数を1とすることが効率的で質の高い医療提供体制の確保につながる
- ・人口動態から将来の病院数は1だが、その前段階として2を目指し検討することが現実的であり、それが最終的に地域医療を守り住民のメリットにつながる
- ・現在の人口分布、交通アクセスも踏まえた住民サービス継続の観点から、現有3施設を活かしながら、将来的にも少なくとも2病院を確保することが必要

具体的な再編等に当たっては、高度急性期機能など、これまで各病院が担ってきた診療機能の特色や立地地域の診療ニーズなどを踏まえ検討するものとする。

また、今後の再編等に当たり、市立室蘭総合病院については、今後も経営の健全化に取り組むとともに、公的病院の担うべき役割を維持・検討しながら民間病院との具体的連携を進めるほか、地方独立行政法人への移行や指定管理者制度の導入など、経営形態の見直しの検討も必要である。

(4) 今後の検討の進め方について

この「提言」を受け、平成30年度の早い時期に3病院、室蘭市の関係職員等で構成される会議を設置し、地域医療構想の動向も考慮しながら検討を進める必要がある。検討項目は多岐に及ぶが、地域医療の維持・確保を最重点とし、職員の雇用対策にも十分に配慮しながら、できるだけ早期に再編等の基本的考え方を整理するものとする。また、将来の経営形態等についても、これらの検討結果を踏まえ、議論を深めることが肝要である。

検討に当たっては、医師派遣を行う医育大学との連携なども重要となるため、必要に応じて医育大学など、外部からも助言を受けるものとする。

なお、市民に対しては、検討結果について、理解と協力を得る必要があることから、検討内容の合意状況に合わせ、周知を徹底するほか、適宜、意見聴取を行いながら検討を進めていくものとする。